

タブレットPC補償サービスで『ついで』『うっかり』にも対応

児童生徒1人1台端末が全国の公立小中学校にほぼ配備され、私立小中学校や高等学校にも広がっている。端末を個人購入する場合も、公費購入・貸与とする場合も、避けられないのが端末の不具合や故障だ。その都度修理に出したり、学校設置者が補償に加入したり等、設置者規模により異なる状況にある。文科科学省では今夏、端末の持ち帰りを推奨したこともあり、休み明けに想定外の不具合や故障もありそう。タブレットPC補償サービスを導入している清泉小学校（神奈川県・有奈保子校長）の塩谷浩一教諭（ICTアナニーター責任者）、古園隆司教諭（6学年主任・前ICTアナニーター責任者）、鈴木功教諭（視聴覚担当・ICTアナニーター）に同校の端末活用と本サービス導入のメリットを聞いた。

清泉小学校

鎌倉府の跡地にある清泉小学校（有奈保子校長・神奈川県）は、教員用80台の共用端末（iPad）配備後、2020年度より3年生が、2021年度より2年生が、知的好奇心を学びの中心に据えた活動が特色だ。2017年度、児童個人所有の端末を、6年生が学校貸与の端末を活用している。端末数が増えたこと、保護者負担となったことから同校で



塩谷浩一教諭



鈴木功教諭



古園隆司教諭

は、端末導入時に在学期間のタブレットPC補償サービスに加入。安心して端末活用を推進できるといふ。全学年で端末活用

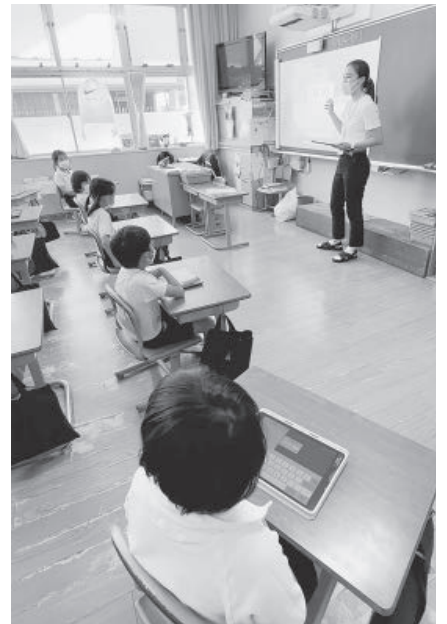
同校ではICT指導計画をICTアナニーター（ICT推進チーム）が策定しており、全学年で「プログラミング」「情報調査・発表」では、

何度でも端末を交換できる Dr. たもつくん

タブレットPC補償サービス「Dr. たもつくん」は、学校で起こり得る「落下による破損」「水濡れ」「起動しない」「等々様々な不具合が端末に生じた場合に回数無制限で修理・新品端末と交換できるサービスだ。対象は日本国内で販売、メーカー修理可能なタブレットは未対応。

導入済端末も対象 Dr. たもつくんBasic

これに加えて今年度より、既に導入済の端末も契約できる「Dr. たもつくんBasic」の提供を開始した。延長保証契約がない端末や保証切れの端末にも対応できる。新品端末の購入後3年以内、日本国内で販売、メーカー修理可能なタブレットPC、ノートPC



低学年も端末をほぼ毎日活用



高学年でロボットプログラミング

おバッテリー寿命や経年による自然消耗・劣化については補償対象外。「Dr. たもつくん」「Dr. たもつくんBasic」いずれも送料・梱包作業不要。チェックシート記入後、電話一本で対応する。修理の上限金額は契約対象端末の機種・メーカー等により設定される（※日本国内で販売されているメーカー純正の端末・修理拠点が日本国内にあるもの）。

報道「調査・発表」では、模造紙による朝の会での発表から始まり、調べ学習やクリスマス集、修学旅行でのグループ発表等に端末を活用。

プログラミングは、1年生からアンプラグドと複数のビジュアルプログラミングを体験。紙芝居やタブレット等のプログラム

補償サービスで故障端末を修理 個人端末導入と同時に導入したタブレットPC補償サービス「Dr. たもつくん」は、日本国内で販売されている端末メーカーの故障について、修理出来ない場合も新品交換するなどすべて補償（詳細後述）するサービスだ。導入理由について「小学生は学校生活の中で『ついで』『うっかり』

雑に扱ったつもりがなくとも壊ってしまったことがあつたり、4年生で人型ロボットのプログラミング、5年生で正多角形のプログラミングを日本語と英語で行う。6年生では算数と理科で統計的な内容を学ぶ計画だ。端末持ち帰りは、スクリーンタイムで使用時間を確認し、学年や時期により休止時間や使用可能アプリを設定するなど調整しつつ行っている。

2020年度から現在までの2年間で不具合が起きた端末は5件。うち2件は端末内部の不具合、3件は端末落下等によるガラス面の破損や本体の変形で、いずれも本サービスにより新品の端末と無償交換となった。「端末修理や買い替えは高額で、家庭には負担。児童の取り扱いにより端末が破損した場合、児童の心理的なストレスも大きい。本サービスの導入により、家庭や保護者、児童への負担軽減や安心感につながり、端末を思い切り活用することができると話した。